

鶴見区区政会議 平成27年第1回第2部会

1 日時

平成27年6月15日（月） 18時59分～20時45分

2 場所

鶴見区役所 4階 402会議室

3 出席者

（委員）

岡本部会長、梅本委員、木村（武）委員、佐々木委員、福岡委員、松田委員、
山下委員

（市会議員）

土岐議員、今井議員

（区役所）

河村区長、萩副区長、奥本魅力創造課長、濱口地域活動支援課長、
西野区政企画担当課長、秋山地域活動支援課長代理、河本地域活動支援担当係長
泉谷地域活動支援担当係長

4 議題

1. 平成27年度鶴見区区政会議の進め方について
2. 平成26年度鶴見区運営方針自己評価について
3. その他

5 議事

開会 18時59分

○濱口地域活動支援課長 こんばんは。定刻は7時からですが、1分早いんですが、真鍋委員は、今日は具合が悪いということですので、途中で来られるかも分かりませんが、改めてその時はというふうに思っております。

ただいまから、鶴見区区政会議平成27年度第1回第2部会を開会いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます地域活動支援課長の濱口でございます。よろしくお願ひいたします。

それでは、開会に当たりまして、河村区長からご挨拶申しあげます。

○河村区長 皆さん、こんばんは。

お忙しいところ、また、夜遅くの時間にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

今日は、平成27年度の第1回目の区政会議ということで、第2部会ということですね、今日は新たな地域コミュニティ支援事業を中心に、地域コミュニティの活性化といったことに、26年度どういった取り組みをしてきたかという振り返りを中心に説明させていただいて、スライドとパワーポイントなんかでもその様子をご覧いただいた上で、また皆様方の振り返ってのご意見を頂戴して、また今後の区政展開に生かしていきたいというふうに考えておりますので、最後までよろしくお願ひいたします。

○濱口地域活動支援課長 まず冒頭に、定足数の確認をさせていただきます。本日は、委員定数8名中7名のご出席をいただいております。定足数を満たしておりますことをご報告いたします。

また、本日は、市議員の方もご出席いただいておりますのでご紹介させていただきます。

土岐議員でございます。

○土岐市議員 どうも皆さん、こんばんは。よろしくお願ひいたします。

○濱口地域活動支援課長 今井議員でございます。

○今井市議員 皆さん、こんばんは。よろしくお願ひいたします。

○濱口地域活動支援課長 それでは、これより議事進行を岡本部長にお願ひいたします。部長、よろしくお願ひいたします。

○岡本部長 皆さん、こんばんは。御無沙汰しております。

今日は、本年度初めての部会でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、会議の公開についてですが、本部会はこれまでと同様、公開としたいと思いますので、ご了承のほどよろしくお願いいたします。

また、これまで報道関係の写真撮影及び録画についても、個人情報を含むなどの事情がない限り、議事開始後も承認いただいておりますので、今回も同様の取り扱いをしたいと思いますと考えておりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○岡本部長 それでは早速ですが、議題1、平成27年度鶴見区区政会議の進め方について、濱口課長、よろしくお願いいたします。

○濱口地域活動支援課長 平成27年度鶴見区区政会議スケジュールという資料1に基づいてご説明させていただきます。

平成27年度の鶴見区区政会議の進め方について、資料に沿って説明させていただきます。資料1の今見ていただいているスケジュールをご覧ください。

まず、本日、第1回の部会におきまして、平成26年度の鶴見区運営方針の自己評価、我々区役所のほうが、自らが思っている自己評価に関するご意見を頂戴したいと思いますと考えております。

また、本日の部会の後に開催されます6月30日の全体会で、この部会で出された意見を共有するとともに、属されている部会以外の項目につきましても、大局的な見地からご意見をいただきたいと思いますと考えております。

次に、9月第2回の部会では、来年度、平成28年度の区の運営方針を作成するに当たっての方向性をお示しさせていただきますので、ここでもまた委員の皆様のご意見をいただきたいと思いますと考えております。

なお、皆様方の任期は平成27年9月30日までとなっておりますので、10月には新しいメンバーによる全体会を開催し、今年度、平成27年度の区運営方針と予算

の説明をさせていただく予定としております。

その後、11月の第3回の部会、また、12月の第3回の全体会におきまして、平成28年度の区運営方針の素案に対するご意見をいただきたいと考えております。

年度終盤の2月には、第4回全体会としまして、区政会議でのご意見を受けて策定した区運営方針（案）及び予算案についてのご説明をいただく予定としております。

平成27年度の鶴見区区政会議の年間スケジュールについては、以上でございます。

○岡本部長 今の説明で、何かご質問はございませんか。

大丈夫ですか。スケジュールに関して、ございませんか。

なければ、次にいきますか。お願いします。

○濱口地域活動支援課長 次に、議題2、平成26年度鶴見区運営方針自己評価について説明させていただきます。

この26年度の鶴見区運営方針の自己評価についてでございますけれども、この自己評価というのは運営方針に記載の戦略と具体的取組につきまして、それぞれの目標の達成状況を点検し有効性を評価することによりまして、必要な施策の改善見直しを行って、次年度の運営方針でありますとか、予算編成への反映を図ることを目的に行っております。

委員の皆様には事前に自己評価シートを送っておりますけれども、本日は特にお手元といいますか、机の上にも自己評価シートを置かせていただいておりますので、この中の右上端に資料3とあります自己評価シートというのをご覧いただけたらと思います。資料3、区運営方針自己評価シート説明シートにより説明させていただきます。

経営課題2ということで、地域コミュニティの活性化についてでございます。戦略2-1、地域社会全体で支え合うコミュニティづくりということで、区役所としましては、26年度、各事業に取り組んできました戦略というのは、ここに書かせていただいている三つでございます。ちょっとはしりながら説明させていただくんですが、まず一つ目、各種団体と連携しながら自律的な地域運営や地域活動の活性化

に向けた支援を行うでありますとか、二つ目のちょぼ、これまで地域活動に関わりの薄かった人が地域活動へ参加しやすい環境づくりに向けた支援を行う。三つ目、コミュニティ・ビジネス化、ソーシャル・ビジネス化を促進し、地域経済の活性化を図るといったような戦略に基づきまして、各事業に我々区役所は取り組んできました。

真ん中、戦略の進捗状況とアウトカムの達成状況ということで、ここで書かせていただいている真ん中の表は、24、25、26の3カ年の中期的目標です。この中期目標がある中で、運営方針に掲げられた項目というのは、ここに書かせていただいている五つでございます。ちなみに、これら目標数値60%とか80%とか書かせていただいている分につきましては、市政改革室が取りまとめたアクションプランの目標数値そのものの数値でございます。我々は、この目標に近づけるよう、一生懸命取り組んできましたんですけれども、アウトカムの達成状況というところが区民1,500名を対象にした無作為抽出のアンケート結果でございます。それぞれの数値が今年度の数値として挙げられています。その横の数値が前年度数値ということになっております。数字は参考程度に見ておいてほしいんですけれども、それに対する区役所の評価というのが、ちょうど右側でございます評価でございます。

次に一番下の段、具体的取組の目標達成状況というふうに書かせていただいています。これが、単年度の年度ごとの取り組みということで、この26年度、昨年度、我々が取り組ませていただいた、この運営方針に掲げられた事項というのが次のこの五つです。一つ目が、会計の透明性の向上、法人格取得などに向けた支援を、中間支援組織と連携して行うでありますとか、各地域の地活協で論議となるよう運営支援を行うでありますとか、三つ目のちょぼ、地域活動の担い手の発掘・育成に向けて課題の整理を図る。四つ目、地域活動を広くPRしていきましょう。五つ目が、地域活動フォーラムの実施でありますとか、取り組み事例の情報発信を積極的に行うというふうなことで取り組んだ結果、その右側、具体的取組というふうなことで、具体的にはこれらの取り組みというのを予定どおり行ってきた訳なんですけれども、地活協の運

営支援12地域、会計勉強会12地域、地活協の法人格取得支援を10地域、地域活動の担い手育成に向けた取り組みや法人格取得の事例などの情報発信が随時、地域活動フォーラムの開催ということで3回というふうなことでやっております。

それと、前にもパワーポイントで、今掲げている取組実績、地活協の運営支援12地域でありますとか、法人格の取得支援でありますとか、情報発信とか地域活動フォーラムというのが、ちょっとこちらのほうにそれぞれ書かせていただいているものがございます。

こういった取り組みを行いながら、その次のページ、これらの単年度の業績目標としましては、この地活協の取り組みなんかの地域活動への理解が進んだというふうに回答した区民の割合60%というのを挙げております。その60%の目標を達成するように、一生懸命取り組んできたところでございます。その結果といたしますか、ちなみに調査の区民アンケートで、こういった地域活動の取り組み自身に肯定的に回答した区民の割合というのが、その右側の47.8%というふうになっておりまして、数字的には60%の目標だったんですけども、47.8%という数値になっております。

なお、課題としましてその次のところで、各地域とも担い手確保に苦慮しているというふうなことで、その改善策として、中間支援組織と連携しながら、人材確保・育成支援を重点的に行うということを考えております。というふうになっております。

続きまして、2-1-2のところでは、地域活動の情報発信について、26年度の取り組みというのが、そこに書かせていただいている1点でございます。中間支援組織等と連携・協力し、幅広い層に対する地域活動への関心を高めるため、積極的に情報発信を行うとともに、地域活動団体等の情報発信力強化に向けた支援を行うというふうにしておりまして、具体的には、これらの取り組みとして、その右側に書かせていただいている、公金使途を区のホームページで公表12地域、地域の魅力や地域活動情報を区のホームページへ掲載ということで随時させていただいておりますし、地域

の広報紙の配架を随時区のほうでもさせていただいております。地域の広報紙集の作製・配布なんかも3回というふうなことでしております。お手元の、この緑の広報紙集がそれにあたるものでございます。また、広報の事業勉強会というふうなことで、全体会5回、地域別3地域を6回というふうなことで取り組んできました。

この目標数値としまして、その下に書かせていただいている、地域の魅力や活動情報等が入手できていると回答した区民の割合60%以上というふうなことで、目標を立てております。肯定的に回答した区民の割合というのが40%というふうな状況でございます。

ここについての課題認識としましては、さらなる情報発信力の強化が必要じゃないかというふうに考えておりました、その改善策といたしまして、これも上の分と同じく、中間支援組織と連携し、各地域の広報媒体に見合った効果的な広報活動を支援するというふうに考えております。

続きまして2-1-3、CB・SB・社会的ビジネスの支援というところです。昨年の単年度の取り組みとしまして、コミュニティ・ビジネスとかソーシャル・ビジネスに関する情報を収集するとともに各地域へ積極的に情報発信を行うというふうなことで取り組んでまいりました。その具体の取組実績としましては、その右側です。区のホームページにコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスに関する情報の掲載を随時行っていきますということでもありますとか、コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスの研修会への参加6回、太陽光パネルの検討会2回というふうなことで、具体に取り組んでまいりました。

この分の業績目標としましては、ホームページのアクセス件数100件というふうなことで、実際ふたをあけましたらアクセス件数が107件あったというふうに考えております。

この分の課題としましては、コミュニティ・ビジネス、ソーシャル・ビジネスという言葉自体を知らない区民が多く、さらなる情報提供が必要というふうなことで課題

認識しております。それに対する改善策としまして、区のホームページに加えて、各地域で行われる会議についても情報提供を行っていきますというふうなことで改善策を考えております。

○奥本魅力創造課長　引き続きまして、私のほうから2-1-4と2-1-5につきましてご説明を申し上げます。

こちらですけれども、経営課題の2としまして、2-1-4、2-1-5があります。こちらはパワーポイントを用意しておりますので、ご覧いただきたいんですけれども、まず、2-1-4です。

取組内容といたしまして、環境意識を高めるための取り組みや学習回答を実施するとしております。取組実績ですけれども、クリーングリーン鶴見緑地です。鶴見区民が主体となって、私たちの誇りである鶴見緑地をより美しく、みんなにもっと愛される公園にしていくという趣旨のもと、区民の皆さんが主体となって実行委員会を結成されまして、平成23年度から年2回、市民協働イベントとして、緑地内の雑草抜きとかゴミ拾いなどの活動を実施されておられます。26年度ですけれども、第7回目と第8回目を実施しております。

第7回目につきましては、6月7日に実施させていただいております。こちらは、咲くやこの花館の横の部分で活動をしていただきました。子どもさんが、こんなふうにして参加もしていただいています。当日は曇り空で雨がちょっと降っていたような状況になっています。こういった形で参加者の方が草刈り機を使用して作業しています。当日、講習会を受けていただいて、この草刈り機を使用できるようになっているんですけれども、こういった形での作業もしていただいています。こちらは、咲くやこの花館のいのちの塔前のところで作業されているところの写真なんかも出ています。

次が、第8回目です。こちらが、10月25日に第8回目を開催しております。こちらのほうも、大芝生の北側の部分ですけれども、こういった活動をしていただきまして、草刈りの活動をされているんですけれども、非常にきれいに、見違えるような

形になっています。第7回目も第8回目も、ともに約200名の方が参加されました。

第9回は今年度なんですけれども、5月30日に開催させていただいています。こちらのほうも、大体200名程度の方が参加していただきまして、緑のせせらぎ、アーモンドの森の周辺で活動していただきました。非常にいい天気のところでしたので、これはアーモンドの木の森の周辺ですけれども、こういった形で雑草抜きとかをしていただき、非常にきれいになったということになっています。

次が、環境学習会。26年度にこういうことも実施させていただいていたんですけれども、環境局と区役所の連携事業といたしまして、3回講座をさせていただいています。これは1回目の様子ですけれども、1回目が「ベランダで育てよう！なにわの伝統野菜」講座というのをさせていただきました。43名の方に参加していただきまして、地元産の食材を使い切る調理方法と体に優しい食生活ということ、この講座で学んでいただきました。2回目ですけれども、こちらは「実践！得する省エネ講座」と題しまして、家庭からのCO₂の排出削減とか、大阪市版の環境家計簿のつけ方などの講習をさせていただきました。第3回目としましては、「Tシャツが大変身！布ぞうりづくり講座」としまして、27名の方が参加していただきましたけれども、古くなったTシャツを使って布ぞうりを、こういった形で皆さん一緒になってつくっていただきました。これが環境学習会です。

次に、「ホタルの夕べ」の授業でございます。26年度は、4小学校で蛍の鑑賞会を実施させていただきました。今津小学校、鶴見南小学校、鶴見小学校、茨田北小学校の4小学校で鑑賞会を実施しまして、全体で1,800名の参加がありました。こちらの写真ですけれども、今年度の写真です。つい最近ありました、今津小学校でやったやつなんですけれども、こういった形で蛍の成長を、写真をもって子どもたちにこういった形で、「ほたるを飛ばそう会」の方たちに説明していただきました。こちらのビデオは、子どもたちが一緒に見ている場面でございます。晩遅いですので、親子連れで来ていただきまして、こういった形で皆さん、中に蛍がいるんですけれども、

水槽みたいなところに蛍がいてた、それを皆さん見られているというようなところ
です。

こちらが、ビオトープでの蛍の幼虫の放流の場面でございます。小学校でビオト
ープをつくっていただいて、こんな形でやっています。これは今年度なんですけれど、
大阪鶴見ライオンズクラブさんのご協賛をいただきまして、「鶴見にほたるを飛ばそ
う会」と鶴見幼稚園、ここに園児の方がいらっしゃるんですが、そういう幼稚園の方
と鶴見区役所と3者で、蛍の幼虫の放流を鶴見緑地内でこういう形でさせていただ
いています。これは、「ほたるを飛ばそう会」の方に幼虫の放し方、川のせせらぎのと
ころにこういった形で放流するんだよということを教えていただいた後、園児がやっ
ているところになっています。

こういった形で26年度は取り組みをさせていただきまして、区役所としては、評
価結果なんですけれども目標を達成して、取り組みにつきましては予定どおり進捗し
たという評価をさせていただいております。

ちなみにですけれども、参考資料といたしまして、業績目標のところなんですけれ
ども、事業を通じて「環境に対する意識が高まった」と回答した参加者の割合を5
0%以上とさせていただいていたんですけれども、結果として81.5%というふう
な状況になっております。

次に、2-1-5の花と緑のまちづくり推進につきまして、ご説明させていただきます。

取組内容といたしましては、種から育てる地域の花づくりや町中の花飾りなど、1
2地域の活動実施にかかる支援とか、講習会等の開催支援を2回させていただいてお
ります。こちら写真なんですけれども、春まきとか秋まきの年2回種まきをして苗
を育てて、その後、各地域や公共施設のほうに出荷していくという形になっておりま
す。そういった事業で、事業の活動拠点が今津中学校の横にあります花づくり広場と
いうところで活動しておられます。こういった形で花を育てていっているという形に

なっています。こちらは、発芽した苗を、一つ一つピンセットで育成用のプラグトレイに移植しているところです。次が、そのプラグトレイからポットへ、今度また一つ一つ移植していつているというところの写真になっています。非常に根気がいることになっています。次、こちらが活動していただいておりますボランティアの方々になっています。

花を育てましたら、こういった形で鶴見緑地駅前の花壇ですけれども、ボランティアの方々でこうした植え込みもしていただいています。ご覧になられた方もいらっしゃるかと思うんですけれども、こういった形で、非常にきれいな形の植え込みになっています。このように12地域、福祉施設とか学校等59カ所にこういった花を配付していただいている形になっています。

また、これは区民まつりに出店している場面なんですけれども、この種花活動のPRのためにパネル展示とか、この写真は苗の植えかえ体験、子どもがちょっとしていますけれども、そういうようなものを実施していただいて、活動の広報に務めているという場面になっています。あと、これは、地域の公園で子どもたちと花植えを実施しているところです。

次は、花の寄せ植え講習会。今年区民センターでやったんですけれども、41名の方がこういう講習会に参加していただいています。公園事務所の職員もいてるんですけれども、こういった形で種花のボランティアの方たちが皆さんに指導していくということで、教えていただいている場面になっています。こういった形で寄せ植えの講習会をしていただきました。

次の写真ですけれども、これはボランティアの講習会の写真になっています。新規ボランティアの方も含めまして、14名の方がこういった形でボランティア講習会に参加していただいています。

次が、「種から育てる地域の花づくり活動」のパンフレットになっています。この活動PRのためのこういう冊子も制作いたしまして、区役所とか区民センター、また

イオンモールとか三井アウトレットパークとか、地下鉄の駅構内、福社会館等で配布させていただいてPRに務めているところです。こちらが、その冊子を広げたところなんですけれども、活動されている方たちの写真を掲載させていただいたり、この左の下なんですけれども、ボランティアメンバーを募集使用ということで、こちらのほうに参加者募集の記事も掲載させていただいています。こちらの写真が、その裏面ですけれども、種まきから花の植えつけまで、事業の一覧が分かるような形で事業概要を掲載させていただいています。

こういった取り組みで、区役所として評価結果になるんですけれども、目標はちょっと未達成なんですけれども、取り組みは予定どおり進めさせていただいたと評価しています。ちなみに、参考資料として、業績目標のところなんですけれども、こういった種花活動を町中で花と緑を推進するまちづくり活動をよく見かけますかということの回答した区民の割合なんですけれども、60%以上としておりましたけれども、結果として51.5%となっております。

それを受けまして、課題なんですけれども、ボランティアの方たちの参加者の裾野があまりちょっと広がっていないのかなと考えておりまして、その改善策といたしまして、そういった活動のPRをもっと積極的に行って、参加者の方たちの裾野を広げていきたいと考えております。

以上でございます。

○秋山地域活動支援課長代理 引き続きまして、経営課題4、安全なまちづくりについてご説明させていただきます。地域活動支援課長代理の秋山です。よろしくお願いいたします。

まず、安全なまちづくりは、大きく2点に分かれておるんですけれども、その1点目の街頭犯罪・交通事故の少ないまちづくりにつきまして、戦略としましては3点挙げさせていただいておりますが、鶴見区の街頭犯罪件数の減少に向け、区を挙げての啓発活動を推進する。2点目が、街頭犯罪の約6割を占めます自転車盗についての重

点的な対策。3点目が、放置自転車も含めました自転車利用者のマナー向上ということで、交通安全の普及・啓発活動に取り組むとしております。

戦略の進捗状況についてですが、3点挙げております。1点目の「安全で住みやすいまちと感じている区民の割合」につきましては、平成28年度までに65%を目指しておりますが、26年度の時点で78%ということで、順調に進んでいるかと思っております。あと2点は件数ということで、街頭犯罪の発生件数と交通事故の死傷者数の減少というのを目指しておりました。街頭犯罪発生件数なんですけれども、前年度比マイナス10%を目指しておりましたが、先ほども申しあげました自転車盗が昨年度数値よりも実は97件増のプラス17.5%という形になってしまいまして、アウトカムの達成状況としましては、前年度比プラス18.4%となってしまいましたので、順調ではないということで評価しております。交通事故のほうにつきましては、順調にマイナス17%を達成いたしましたので順調と評価しております。

その部分で、具体的な取り組みの目標達成状況ということで、まず地域・関係機関と連携しました防犯対策事業なんですけれども、カラーで写真もつけさせていただいていますので、スライドのほうを見ていただきたいんですが、1点目が、鶴見区防犯の日一斉行動ということで、毎月第2金曜日の小学生下校時に合わせまして、各地域の防犯推進委員ですとか地域の皆さん、関係機関が一体となりまして、見守りを毎月、取組実績12回ということで行ってまいりました。あと合同連絡会の開催ということで、安全なまちづくり推進協議会と防犯推進委員会議を実施いたしまして、前年度の振り返りですとか、当年の事業の推進の方向性なんかを検討させていただいてきました。次、自転車盗の防止ということで、鍵の取り付けキャンペーンということで、二重ロックの推奨をしておるんですけれども、それをひたたくり防止カバーの取り付けとあわせまして、区内のいろいろな地域で月1回、ちょっと雨天で中止になったものもありますので、取組実績11回ということで行ってまいりました。あと、区職員による巡視ということで、青色パトロールを使いまして、毎日、午前・午後と地域を回

っておりますので、取組実績244回ということで実施しております。

以上のような防犯活動の様子ですとか、犯罪情報等につきまして広報活動をしておりまして、広報誌への掲載も11回、ホームページやフェイスブックなどにもいろいろと情報を提供しておりますし、また、区内で起こりました犯罪の、例えばですけれども痴漢行為ですとかひったくりなんかの情報につきましても掲示したりしまして、情報提供をしていっております。

以上の取り組みの結果、資料3のほうに戻りますが、業績目標といたしましては、「安全で住みやすいまちと感じている」区民の割合を50%以上としておりましたが、78.3%の回答をいただいております、目標達成と評価させていただいております。27年度も、引き続き関係機関・地域と連携して事業を行っていくということにさせていただいております。

次に、地域・関係機関と連携しました交通安全対策事業ですけれども、取組内容といたしましては、交通事故防止や自転車マナーの向上を目指した啓発活動としております。

こちらカラーの写真を付けさせていただいておりますけれども、まず、さまざまな年齢層、各層に交通安全の教室をひらくということで、まず1点目が、子育て層の方への交通安全教室を行ってまいりました。子育てサロンに参加されているところに職員が出向きまして、各地域1回、取組実績としては全12地域に対しまして安全教室を実施してまいりました。あと、高齢者の方の交通安全研修ということで、高齢者の方のリーダーを育成しておりますけれども、秋の交通安全運動に合わせまして1回開催してきております。あと、これは新たな取り組みなんですけれども、園児の方へ交通安全教室を行ってきました。区内の保育園の3歳以上のお子さんに対しまして、ビデオとかを交えまして、この安全まちづくりの担当職員が講習を1回行ってきました。あと、自転車マナーアップキャンペーンということで、交通安全運動期間と合わせまして、区内の3カ所の高校の方も一緒に参加していただきまして、マナーア

ップの取り組みをしてまいりました。あと、これも新しい取り組みになるんですけれども、スケアードストレート学習ということで、スタントマンの方を使いまして、ある意味すごくインパクトのある研修というのをさせていただきました。対象といたしましては、親子3世代ということで、子どもの育成会ですとか高齢の方にも呼びかけをいたしまして、1回やっております。アンケート結果で、すごくマナーの大切さが分かったということで、98%のマナーの大切さが分かったというような回答もいただいております。

このスライドにはつけておりませんが、あと取組実績といたしまして、放置自転車の撤去を区内の3駅と鶴見緑地のほうで随時この回数をやって、撤去を行ってまいりました。

以上の取り組みを行ってきまして、ただ、目標達成状況といたしましては、区民モニターのアンケートをさせていただいたんですけれども、「鶴見区全体の交通マナーが向上している」というところではいきますと、なかなか目標としておりました数値を大きく下回る状態となっておりますので、撤退基準というか、評価としては順調ではなかったとしております。27年度に向けまして、どういう層にどういうふうな取り組みをしていくと、そこが区民の方に反映されるのかということで、27年度いろいろと検討していかなければいけないと思っておりますけれども、まずは、例えばスケアードストレート学習も、子どもさんでいくと小さい小学生の層を26年度に実施いたしました。もう少し実際には中学・高校生の年齢の高い方なんかもマナーのことを言われることも多いので、そういうところの層に実施したりできないかということで取り組んでいこうと思っております。

次に、戦略4-2の災害に強いまちづくりになりますけれども、戦略としましては4点挙げておりますが、まず、連携した訓練などの実施で、区全体の危機管理対応能力を向上させる。また、自助・共助の意識の向上や、地域の自主防災組織の強化とその支援を行っていく。災害時の初動時の防災力向上を図り、自主防災組織における災

害時要援護者支援の仕組みづくりを進めるという形で戦略を持っております。

進捗状況におきましては2点挙げておりますけれども、まず、地震・風水害の災害に対しての区全体の危機管理対応能力の向上を感じるとしましたところにつきましては、平成28年度までに60%以上を目指しております、26年度でいきますと、まだまだその達成状況としては低いんですけれども、25年度はちょっと数値をはかっていないところはあるんですが、いろいろと取り組みもさせていただいているところですので、28年度には到達していくということで評価をさせていただいております。次に、防災など危機事象ごとの計画・マニュアルの作成を知っている区民の割合につきましては、26年度までに80%を目指していたところなんですけれども、鶴見区の地域防災計画自体が昨年度12月に策定という形になっておりまして、なかなか周知・広報をする機会というのがうまくできませんでしたので、その点でいきますとアウトカムの達成状況としては低くなってしまっていて、順調ではないと考えております。

それを踏まえまして、取り組みの目標達成状況になってまいりますけれども、まず1点目、区民の安全・安心を担う総合拠点としての区役所づくりということで、取組内容としましては、職員の危機対応能力の向上と区地域防災計画の周知ということで、これも写真をつけさせていただいておりますが、職員の研修を災害対策本部の職員を対象にしたり、また、直近参集者ということで別の部署からも来ていただきますので、その方たち等の訓練を年間合わせて5回実施してまいりました。あと、先ほど申しあげました地域防災計画を12月に策定しておりますので、これの周知を図っていくということになります。

以上、この分につきましては、業績目標は訓練参加の職員に対しまして防災に対する技術が高まったかというアンケートをつくりまして、目標達成状況としては95.5%の職員が初期初動の活動について理解できたという回答の結果を得ていますので、目標達成ということで評価しております。しかしながら、個々の役割は机上では理解

していただいているんですけども、まだまだ不十分と考えておりますので、改善策といたしまして、より具体的な、実践的な訓練・研修というのを行っていかなければならないと考えております。また、区防災計画につきましても、地域での訓練や出前講座を数多く行っておりますので、その機会も捉まえまして認知度の向上につなげていかなければならないと考えております。

次に、地域における自主防災力の強化・支援ということで、取組内容としましては、自主防災力強化のためのワークショップや訓練などを実施していくということが主な内容になってくるんですけども、こちらも写真をつけさせていただいておりますが、まず、図上訓練ということで、3地域実施してまいりました。図上訓練といいますが、自分たちの地域の災害時の強みや弱みを地図とかそういうのを見ながら考えていただくというような訓練になります。あと、HUGゲームということで、避難所を実際開設したときにどういうふうな、例えば部屋割をしたらいいとか、どんな問題が起きるかというのを、机上ではありますけれどもみんなで考えていくというような訓練を3地域で行ってまいりました。あと、避難所開設運営訓練ということで、実際に避難所となります小学校を使いまして、各11地域のほうで実際にその地域の方に避難者の受付をやっていただいたり、体験ブースということで、この写真については、水圧でドアがあきにくくなるというような、そんな体験もしていただくような機会も持っていていただいております。あと、出前講座ということで、各種団体ですとかマンション単位なんかからご希望がありまして、災害のいろんな基礎的な学習なんかを年10回取り組んでまいりました。あと、企業登録制度の募集ということで、災害時に企業さんが持つておられるいろいろな技術ですとか資源を活用させていただくということで、鶴見区のほうで登録していただきまして、今、27年3月末現在で51社がこちらのほうに登録していただいております、引き続き募集のほうを掛けていっております。あと、ワークショップということで、これは体験型のいろんな講座ですね、親子防災教室ですとか、ジュニア防災リーダーということで、宿泊も含め

てやっただいているような地域もあります。これについては、年間3地域実施してまいりました。

そのような取り組みをしてまいりまして、業績目標といたしましては、「防災等に対する理解が高まった」と感じる区民の割合が80%を目指しておりましたが、これについては地域主催の防災訓練に実際に参加された方にアンケートをとりまして、81.6%ということで数値は上回っておりまして、目標を達成していると考えております。ただ、全地域で実際に訓練も行っていたらいいんですけども、さらに地域特性に特化した形で訓練を実施していくと、災害の特性に対して地域が強くなるのかなということで、そこの部分の訓練の提案・支援を今後も実施していこうと思っております。

以上です。

○岡本部長 ありがとうございました。

以上、お三方から約40分にわたりご説明いただいたんですが、何かご意見・ご質問があれば、よろしくお願ひしたいんでございます。

ないと困るんですね。30日の本会議のときに何か言わないと。遠慮なせずに、鋭い突っ込みを入れていただこうかと思ひますが。

すみません、私のほうから一つお聞きしてよろしいですか。

例えば、クリーングリーンとか、一応毎回約200名に参加していただいているふうにお聞きしたんですが、当初、結構各種団体の要請があったりとか、そちらのほうの人員が多かったと思うんですが、最近では、自主的に本当の区民の方が参加していただいている割合というのは、だんだん増えてきているんですか。

○奥本魅力創造課長 そうですね。当初は300名近くの方がいらっしやっていたと思うんですけども、最近ではやはり200名ぐらいという、やっぱり減ってはきていると思うんですけども、鶴見区民の方だけではなくて守口の方もいらっしやいますし、いろんなところからも来ていただいていると思ひています。

やっぱりこのクリーングリーンに参加するに当たりまして、大体慣れてきている人は常に長袖とか、虫刺されのようなやつもちゃんとしていただいていますし、大分皆さん方の中では定着してきているのかなとは思っています。

○岡本部長 なるほど。そういう方っていうのは別に、ほかに何か団体に所属している訳でなく、本当に個人的にいらしている方が。

○奥本魅力創造課長 そこまでちょっと聞いてはいないんですけども。

○木村（武）委員 今の話ですけど、今ほとんど、組織は全く関係ないですわ。一般の人。一般の人がもうほとんどやってきてますんでね。組織そのものは関係ないですね。これも大体200名程度の集まりなんですけれども、私ももっともっと広がってもええかなと感じています。私もずっとこれ、1回目から参加してますんでね。ただ、確かに最初は各種団体をお願いして集まってもらったんですけど、今はもうほとんど、全く一般の人。この呼びかけで集まってきている人でやってますんでね、そういう意味では、本当にこの機会に自然に触れて緑地をきれいにしていこうというふうに考えている人が多いと思いますし、親子連れが多いですわ。子ども連れで来てくれて、子ども達でもこの間も、楽しい言いながらやっていましたけれどね。草刈りしながら、いろんな話をしながら一生懸命やってますんでね、楽しい楽しい言うてましたね。そんなふうに広がって、そういう意味ではいい方向に向かっていると思うんですけど、もっともっと私も大きな輪にならんかないうふうに思いますんですけどね。これは本当に緑地の一部の草が伸びているところを刈るだけであって、後は管理者がやっているんでしょうけどね、できたら私も本当に守口・門真も含めて、年1回ぐらいはみんなで、これは草刈りですけども、緑地の掃除を年1回、これは鶴見区民が一番使っている訳でしょう、区民まつりもするしね。ですので、一遍クリーングリーンの会議では、ちょっと私もそんなこと言うたことあると思うんですけど、年1回やっぱり全体で鶴見緑地をわーっと、ゴミ拾いから掃除をしたいなというようなことをやってみたいなというふうに思いますね。それぐらいな広がりがあった

もええんちゃうかなと思いますけれども、緑地に関しては。これだけみんな緑地緑地言うて、区民まつりもするし、いろんなこともやっているけどね。

環境ということも考えられ、それもやって、できたらクリーングリーンのときも話があったんですけどね、トイレが汚いという話がありました。クリーングリーの会議ちゃうな、区政会議やな。区政会議で、トイレが汚い、トイレが汚いって話がありました。確かにこれ、花博から以後、ずっとそのままある訳なんですけれど、あの当時は立派なトイレやったんでしょけれども、もちろん障がい者もちゃんと入れるようなトイレになっているんですけども、それも含めて、まずやっぱり我々が汚かったら掃除したらええのや、言うたら。そうでしょう。トイレをつくってくれ言うたら、やっぱり大阪市だって大変なお金がかかるんやから、なかなかそれは進む訳ないですやんか。そやけど、古いトイレでも清潔にしているところは何ぼでもある訳やからね。どこのまちの中でも。だから、そう思うんやったら、みんながそこで、まずトイレの掃除をしましょうかというぐらいなところに、僕はつながっても今の時代おかしくないと思うんやけどね。

緑地に関しては、そんなふうに私も思っていますけど。目指してください。

○福岡委員 今と同じような考え方でね、私も質問しながら思ったんは、結局そういう方向性が区民の皆さん、守口の皆さんでいく、その前にお尋ねしなあかんのはね、各種団体というのは、まあ言うたら体協さんやスポ振さんや子ども会さんや、これまた3年も4年も前の話をするか分かりませんが、コミ協がなくなってそれを束ねる存在がない訳ですね。木村会長、そなんん言いはるけど、サクラでも初めて行ったんは各種団体が初めて行って、体協さん、この間8名やいう話ですわ。声かけはしてはりましたわ。今おっしゃるとおりですわ。もう各種団体減ってると思います。そやけど、今、会長が言わはるように、それこそトイレの掃除もして区民まつりも利用してんのやったらね、各種団体が言わなあかん訳です。各種団体に号令をかける組織がどこにもないんですよね。この間、ええまちネットさんが6日か7日にしはって、

ボランティアしてくれませんかって各種団体に頼みに行っはる訳です。一つの大きな組織の中で、社協の中でも、私らスポ振でも言われることない、一応評議委員やから呼ばれるんでしょう。社協さんいうたら、寄附の話ですかだけで、各種団体加勢したろかっていうような組織はない訳ですね。そやからここで、各種団体、各種団体協力するって言いはりますけれども、それを束ねる組織が今どこにもない訳ですわ。そんならもう一回、またコミ協みたいなのをどっかつくるか、各種団体でするんやったら体協さんあたりがまとめるか、木村会長もその辺はひょっとしたら、そんなん要らんわ思っはるか分かりませんし。

○木村（武）委員　　そんなことない、そんなことない。

○福岡委員　　やっぱりその組織がね。

○木村（武）委員　　思っないですよ。要はね、今おっしやる束ねようとせないかんところはあそこですやんか、大阪鶴見ええまちネットワークですやん。これが束ねるところなんですわ。けどね、大分もうやっこさ、ここ3年ほどかかってぼちぼちネットワーク、理解してくれるようになりましたですけれどね、それもまだまだこっちのネットワークに関しては12連合が自分らの組織やからちゃんとやらないかんなど、実際にみんながそう思っはるかっていうと、そんなこともないと思っます。温度差がありますわ。だから本来はこのNPOがしっかり、コミ協に変わってそれが立ち上がったんやから、まして前区長の辰己区長も汗かいてつくった組織ですからね、これをやっぱり本来12校下のトップがもうちょっと意識を持って、我々の組織やいうことで動いてもらわないかんと思っますわ。やから、こんなことでもね、別に今おっしやるように、トイレの掃除とか草刈りやゴミ拾いや言うたって、本当はそれだけの組織が今ある訳やから、それも生徒さんもほんまにみんな、たくさんおる訳やから、その人達がそういつたときには、そうやな、我々みんなでここでいろんなイベントやったり楽しむところやから、みんなそない言うんやったら集まろうかという気になってくれたら一番ええんやけども、なかなかそうはいけない、進まない現状があります、

確かにね。

だけど、僕は一応そんなふうには言っているんですけども、これは一人二人ずつでも増えていくということを期待して、諦めんとやっていかないかのじゃないかないうふうに思いますけれどね。そりゃ、なかなかね、その辺回るかも分らんけど、確かにね。

○福岡委員　それで言うたらね、結局、地活になって地域で体協さんや子ども会さんの地域の活動はできるけど、区の活動して何しますのんと。もうこれ、3年も4年も前から始まったことで、私もずっとこれ辛抱してんねんけど、もうええやろいうような時期にきたんちゃうかなと。どなたかが一回、木村会長がまとめはったらよろしいんちゃいますか。各団体呼んでね。それで、やろうやって言うてくれはったら済むんかなと思いますけれども。

○木村（武）委員　と思いますけれどね。

○岡本部長　ちょっと今、お話しの趣旨が、何か。とりあえず、今日は、去年の振り返りなんで、大局的な話を。

○福岡委員　要するに各種団体と、この各種団体は何ですかから始まって、体協さんもあるわなど。そこへうまいこと声かけて、やっぱりさっき言いましたように、前回、体協さんなんか8人や言うから、もとは何十人も出してはった組織なんで、そうしたら一般の人が200人、各種区民、当然おっしゃるように100人ぐらいが集まったら300人になりますんでね。

そやけど、本来の趣旨はどっちかないことです。役所はひょっとして、ええねんと、サクラみたいなん要らんねんと、一般の市民さんだけやってもうたらええねや言うんやったら話は別ですけど、そやけど、会長が今言いはるようにトイレも掃除しなあかん、きれいにしたろか言うのやったら、当然、鶴見区の各種団体も地域振興会も含めた団体も、もっともっと呼びかけなあかんやろというような思いです。済んません。それが、300も400もすぐになるやろという趣旨ですね。

○岡本部長 　とりあえず今日は、去年の振り返りなんで。

　さっきのクリーングリーンの話、一応、一般の方がふえてきたってということなんで、そういうときに例えば種花活動に参加しませんかとか、そういうアピールとかはされていますか。

○奥本魅力創造課長 　そうですね。今おっしゃられたみたいに、区での行事なんかもそういったところでアピールする場面もあります。チラシとか置いてですね、こういうことをやってますとかいうことをさせていただいていることもあります。

○岡本部長 　ぜひもっと強力でそういうのをやっていただけたら、多分ボランティアの裾野も広がるんじゃないかなって、ふと思ったんで、そういうことを質問させていただいたんですね。

○奥本魅力創造課長 　ありがとうございます。

○木村（武）委員 　ちょっと一つ。今の花と緑の推進ということで、種花広場に関わることなんですけどね。地域市民から、あそこのキンモクセイの木が何ぼかあるでしょう。ほかの木もありますわ。だーっと道路側に出てね、ものすごく茂って出ているんですわ。それを何とかしてくれ、何とかしてくれ、住民から言われていますんで、これも忘れんと今日言うておきます。また、よろしく頼みます。一遍見に行つて。

○奥本魅力創造課長 　はい。

○岡本部長 　じゃ、ちょっと違った質問から。

　山下さん、何かありますか。

○山下委員 　アウトカムの達成状況をチェックするためのアンケートというのは、無作為に1,500世帯ですか、とられているということですよ。

○奥本魅力創造課長 　アンケートにつきましては、無作為に1,500人。

○山下委員 　人というのは、世帯主宛てにということ。

○奥本魅力創造課長 　そうですね、基本的には。

○山下委員 　基本的にはね。ということは大人ですよ。

○奥本魅力創造課長 いや、ごめんなさい、世帯主ではなくて、住基情報からとってきますので、ですからお若い方、20代の方もいらっしゃれば70代の方もいたり、非常に幅広い世代になっていってますね。

○山下委員 いわゆる成人ですよ。

○奥本魅力創造課長 世帯主ではないですけど、そうですね。

○山下委員 子どもさんとか、高校生とか中学生に対してこういう趣旨のアンケートをとったことというのは。

○奥本魅力創造課長 子どもというのは、児童・生徒のことですか。

○山下委員 そうですね。児童・生徒、中学生・高校生ぐらいである程度認識ができるような子どもさんですね。というのは、地域の新たな担い手が発掘できないという話とちょっと関連づけられるのかなと思うんですけども、やっぱり動機づけというのがある意味大事かなと思うんですね。子どもさんに対する動機づけね。動機づけの入り口として、そのアンケートというのを持って行って、こういうことをちょっと教えてほしいんだけどって、子どもさんにですよ、聞いたら、その子に対してひょっとしたら地域とか地域活動ということに関わる動機づけができるのかなと。

○奥本魅力創造課長 家族間で話し合いを。

○山下委員 いや、できたら直、赤の他人のほうがいいのかとか思って。いわゆる区役所、行政の方が子どもさんに対して、例えばどっかの中学校の一つの教室に行って、区役所はこんなことやっていますけど知っていますかとか、こんなやっているけれどどうですか、やってほしいことないですかというような、それこそ出前授業みたいな形で行って。

○奥本魅力創造課長 そういうことですね。

○山下委員 行って、そこでアンケートをとって、それがアウトカム、ここに載っているかどうかは別にして、動機づけという形で、そういう同じようなアンケートをとっていかれると、新たな担い手も発掘できるんじゃないかなって、今ちょっと見

ながら思っていたんで。それは、一つ提案的にね。

○木村（武）委員 山下さん、賛成やわ。

○山下委員 ですね。だから、そういう形でやっていかれたらどうかなと。あくまでもやっぱり行政が見ているのって、大人しか見てないのかなっていうふうに思って。このアンケートをとられている。だから最初に世帯ですかというふうに聞かせてもらったんですけども。大人ばかり目を向けてても意味ないですし。さっき言った動機づけと、関心を持っていただく、新たな担い手を発掘するというのが全部、ひょっとしたら子どもにそういう話を持っていくとできるのかなと思ったんで、そういう取り組みもぜひしていただけたらなと、どうかなと。

○奥本魅力創造課長 そうですね。中学生とかは吸収もかなりされると思いますし、それによって区政とかにも関心を持っていただければと思いますので、課でもちょっと必要かなと思いますので、検討はさせていただこうかなと思います。

○山下委員 今、大分行政の方が出前授業とかいう形でいろいろ中学生入っていただいているようなね、何かね。

○奥本魅力創造課長 そうですね。出前講座とかしています。

○山下委員 そこに区役所が行かんでどうすんねんという話かもしれないですね、逆にね。一番最初に行政としては、ばーんと入っていかないと、企業というか事業者として入っていかないと。区役所って、こんなところですよっていうふうな話から入って行って、こんなんやっていますよ、あんなんやっていますよ、皆さんのためにと言うたらあれですけどね、恩着せがましいあれやけど、社会がうまく回るようにこんなことやっていますとか、おっちゃんが夜7時から集まって話していますわ、そういう話でもいいんじゃないですか。そういうところを出前授業的にやって行って、アンケートをとってすると、またアウトカムも違ってくるのかな。だから、若いところからやっぱり育てていかんと仕方がないと思うので。それは、ちょっと感じました。

以上です。

○岡本部長 ありがとうございます。

ほかにご意見なかったですか。

○佐々木委員 防犯の件ですけれど、自転車がやっぱり、いろんな犯罪が少なくなっているのに自転車だけはすごく増えているって、特に鶴見は多いということですが、自転車の鍵を二重鍵にすると、盗難する自転車は鍵なし、鍵があっても盗難する、どんな傾向ですか。

○秋山地域活動支援課長代理 されていても絶対とは言いがたいんですけど、やっぱり二重ロックにすると格段にそこは数値が下がるというところで、あとは放置自転車というか、適当なところに置くと盗られやすいので、その2点について27年度また重点的にやっていこうと思っています。

○佐々木委員 放置自転車っていうもの自体がね、もうそもそも、とってくださいよ言わんばかりにあれですよって、それを件数に入れるとそれはあれですけども、ロックされているのに持っていかれるとかっていうんだったらね、ちょっと大変なあれですけど。少しでも二重ロックに。

○木村（武）委員 佐々木さん、鍵かけているやつも持っていきよる。

○佐々木委員 いい自転車やったら。

○木村（武）委員 確かに二重鍵にしたら、それだけ時間がかかるから、やっぱり今おっしゃるとおりやったんやけれども。

○佐々木委員 防犯のやり方もある訳ね。防ぐ方法は、そうして二重にしてっていうこともありますし、今の防犯カメラも効果があったり、できるだけ、できることをしていかないと、漠然としていてつかみどころがないので、何か成績を上げたい言うてもあれやけど、集中的に今回はこれをやっていこうかなっていうようにしたら、ちょっとまた変わってくるんやないかなと。二重ロックが少しでも、私らでもひったくりのあんなんするときに同時に、自転車持ってみえたらその話もともにして、両方のあれでメンテナンスしていったらいいかなと。二重ロックのことは、私らも今年のひ

ったくり当番のときが雨で中止になったので、また二重ロックの自転車のそのとき
ことは知らないんですけれども、今もう各防止カバーを配っているときはやっていま
すねんね。

○秋山地域活動支援課長代理　　そうですね。今は一緒にセットでさせていただいて
いますので。

○佐々木委員　　そうですか。そうしたら、大分自転車数も。

○秋山地域活動支援課長代理　　そうですね。26年度は一応1回80台としていた
んですけれども、やっぱり増えてきていますので、27年度はそれより増やした形で、
できたら100台ペースでいきたいなと思っています。

○佐々木委員　　それやったら大分また変わってきますよね。

○秋山地域活動支援課長代理　　そうですね。

○萩副区長　　結構、鍵しない子も多たって聞いたんですよね。

○佐々木委員　　そうよね。

○萩副区長　　聞いたら、自転車なんて安いもんやから別にとられてもええわとかい
う子も多たって聞いたんですよね。そこから、ちょっと教育というか、啓発しないと
いけませんね。

○佐々木委員　　分かりました。

○岡本部会長　　はい、どうぞ。

○梅本委員　　種から育てるあれですけど、もう今の時期はあったかいからすぐ成
長もしますけれど、冬の寒い間、やっぱりいい種を植えるようにしてもらおうほうがい
い。せっかく皆行ってやるのに。

○奥本魅力創造課長　　そうですね。皆さん活動されていますので。

○梅本委員　　植える時分には芽も出ないというようなあれがあるから、やっぱり苗
をね、いい種を購入してもろうて、成長するようにしてもらいたいと思いますね。

○奥本魅力創造課長　　はい。そういう形でも支援を十分させていただきたいと思っ

ています。

○岡本部長 ありがとうございます。

ほか、何か。

○木村（武）委員 経営課題4の安全なまちづくりということなんですけれども、4-1の街頭犯罪、さっきから出ておる話なんですけれども、自転車の話なんですけれども、やっぱり6月から罰金もあれやし、払わなかったら逮捕するということもないんですけども、それ分かっているんですけどね、警察のほうからもいろいろ来るんですけど、分かっているんですけど、私も月曜日に放出行きまして立ちますけども、分かっているけどもまだ今平気やもんね。まだ多いですわ。警察の人も言うんやけども、1回や2回ではやっぱり捕まえるということにはできないから、それは何回も駄目よ、駄目よいうのを繰り返してやっていかないかんと思っていますとは言ってますけども、今、これ6月から始まっているけれど、私も時々通りすがりに、もう6月からあかんねんでいうて、もう捕まるでとは言うんやけども、やっぱりまだまだマナーが悪いですね。だから、その辺は、もちろん警察の人も悩むぐらいやから、行く行くはやっぱり、うちの放出なんか、防犯カメラに映っている訳なんですよ。だから、映っているよいうことは言いますが、それでも平気で行く人もおるし、高校生なんかちょっと毎回同じ顔見るときもあるから、常習やからおまえあかんでいうようなことは言いますが、そういう意味では、まだまだ自転車は具合悪いですね。

それで、保険入ってないんですよ、まだまだ。今回、市民共済のほうからあんなんが出たんで、また大分入ってくれる、うちの家族も入らないかんでいうて入るようにしていますけども、ほんまにこれぼんとやったら、結構速いですしね、このごろ、乗っている人のスピードが。飲んでもあかんしね。

そんなことで、やっぱりちゃんとしていかないかんのですけど、今、ちょっと防犯カメラの件が出ましたやろ。やっぱり防犯カメラが街頭犯罪を減らすのに一番効果があると思います、私も。御存じのように、うちはもう全校下、榎本校下中、全部つけ

ように思っていますけれども、車のほうも力入れてくれているんですけども、これっていつもあれでしょう、校下で2台やったら2台って均等に割りますやんか。そこんこ、ちょっと何とかありません。2,000の世帯のところと7,000、うち8,000でっせ。何ぼ2台もろたって、うち同じやと追っつかんもん。だからうちは自前でもつけているんですけどね。そこんこ、ちょっと考えてくださいや。

○河村区長　人口でやるのがいいのかというのがありますがけれども。

○木村（武）委員　それでね、もうこんな初めてやったんですけどね、先週、駅前のカメラを貸してくれいうて持って行ったら。鶴見警察が。そんならもう、見事に映っていたと。それで逮捕した。それが、ものすごい大物やった言うて。でもね、やっぱり効果あったと思います。そやから、やっぱり子どもの安全面も考えて、うちはもうこの2台もその方面にずっとつなぎましたけどね。もっともっと普及して、鶴見区全体として。学校周りにはもう全部ついてますか、鶴見区は。

○萩副区長　全部はついてないですね。

○濱口地域活動支援課長　ようやく、つけ始めたので、まだ全部はついてないと思います。

○木村（武）委員　せめてやっぱり学校周りでも、ちゃんと先に全部つくようにしていったらええんちゃうんかと思えますけどね。そういうところですよ。

○山下委員　今のに関連した感じなんですけれども、交通安全対策事業に関わる評価の結果の部分で、撤退基準に達したという表現をされているんですけども、これ数値上は撤退基準ということなんだろうけども、これ表現として、撤退基準に達したということここをここにうたっちゃうのは何か。

○萩副区長　これは、全体としてこういう表現にきなさいという話なんですけども、要するに今やっていること自体が、そんなに効果があらわれてないのではと。することを再構築して、もっと効果の出る形にきなさいというのが、この撤退基準に達したという表現です。

- 山下委員 それはでも、撤退じゃないですよ。
- 萩副区長 撤退じゃないです。やり方を変えなさいです。
- 山下委員 やり方を変えなさいですよ。だから、そういう基準で表現を。
- 萩副区長 なってしまっているんで、非常に申し訳ないんですけども。
- 山下委員 やめてもうんかってなってしまうんで、やっぱりここはもう、僕はそれで説明受けたからいいですけども、これをぽんとホームページに入れられたときに、何やこれって。
- 河村区長 そうですね。だから、やり方を工夫せえとか、もうちょっとその、ええように。
- 山下委員 注釈を入れるなり、工夫をしたほうがいいと思いますね。撤退基準に達しただけで、ぽんと1行だけ入れられたら、やる気ないんかになってしまう。やっぱりその辺の工夫をちょっと入れておいたほうが、身のため。
- 萩副区長 事業再構築とかね、そんな表現をちょっと入れます。
- 岡本部長 福岡さん。
- 福岡委員 この「ホテルのタベ」なんですけども、このごろ私も、何か6月13日に鶴見小学校で鑑賞会があったということなんですけども、基本的に昔は育ててそこで飛ばそういうような考え方で、最終的には鶴見緑地に蛍を飛ばそうやないかということやったようにも思うんです。いや、私ら勝手に思っただけか分かりませんが。少し聞いたら、持ってきはったやつを飛ばして、みんなで喜んではるだけやろという話みたいですね。ほんまに元々のことから考えたときに、最終的には緑地で飛ばすんじゃないんですか。ああいうところでは環境がよくないから、蛍は無理なんではしょうか。何か、昔そんなような趣旨も聞いたことあるんですけど、田中富一さんでも、どっか滋賀県の奥のほうへ行って見てきたとかね。
- 奥本魅力創造課長 見学ツアーみたいなのに行かれているというのをお聞きしたことが。鶴見区の環境を昔みたいによくするというので、昔は蛍が飛び交っていて

自然環境がすごくよかったということが趣旨だと思いますので、そういう環境をよくしていくという形で、鶴見緑地で蛍を生育するというのが一つの指標みたいな形になっているのかなと思いますけれども。

確かに緑地公園でもこの間、さきほどもご説明いたしましたように、飛ばしておられるんですよね。だから、緑地内でも蛍が飛び交うというのは非常にいいことだとは思いますが、各小学校でも今やっておられますし、そうした形で、鶴見区内がどこでも環境をよくしていくということが一つの目標なのかなと思いますけど。

○福岡委員 少なくとも各学校に何かこういうのをつくっておいて。

○奥本魅力創造課長 ビオトープですね。ビオトープをつくってやっています。

○福岡委員 それはもうなくなって。

○奥本魅力創造課長 いや、今もあります。

○福岡委員 あるんですか。

○奥本魅力創造課長 ビオトープは。

○濱口地域活動支援課長 7小学校で。

○奥本魅力創造課長 7小学校ですかね。

○福岡委員 まだあるんですか。

○奥本魅力創造課長 中学校も含めて7カ所ですかね。

○福岡委員 そうすると、そこで育った蛍を持ってきて、例えば鶴見小学校では飛ばしはった。

○奥本魅力創造課長 持ってきてじゃなくて、そのビオトープの中で見させて。

○福岡委員 鶴見小学校は、そこで育ったんですか。

○佐々木委員 大分前は、そんなこともしたんですよ。やっぱりちょっと入れてしてっていう。でも、蛍っていうのはすごく難しい。温度管理も難しい。だから普通学校で、それをしようと思ったけど、なかなかできなかったということで、今は子どもたちに蛍ってこんなもんやろうという、蛍の習性とかそういうようなものを、いろん

なカメラで写したいろんな説明をしもってやって、その説明を聞いた後で鶴見小学校は小さな小屋があるんですけど、その中に蛍がいてて飛び交っている。蛍を見たこともない子もたくさんいますので、蛍ってこういうなんで光って、こうしてるっていう、一番序の口やとは思いますが、そういう学習もしているかなっていうことですね。だから、本当は鶴見の環境をよくして、蛍が飛ぶような自然に水もきれいになってというようなところがあれば、それはあれですけど、最初はそういうような意気込みがあったかもしれませんが、各学校で、鶴見小学校においては、ちょっとやっぱり難しかったと、育てるのがね。

○萩副区長 200匹ぐらいいましたね。

○佐々木委員 なかなか、さっき言うてはったように、38度以上やったら絶対蛍は死んでしまう。すごくやっぱり涼しいところにいてないと。ちょっとやってみたくない人の話も聞いたみたら、それこそ入れ物の上に保冷剤を置くとか、空気の温度を下げるとかっていう、かなり装置も難しいということですので、各学校でそれをせえっていうのは、ちょっと無理かなと。せいぜい蛍ってこんなもんやっていうことを子どもたちに教えることが、今、それぐらいかなと思うんですけどね。それ以上、ちょっと。

○福岡委員 昔は飛んでいた訳でしょう。

○佐々木委員 昔は飛んでいましたよ、私が子どもの時分。

○福岡委員 確かに温暖化で上がったにしても、昔は鶴見の中で飛んでおった訳ですね。

○佐々木委員 飛んでいましたよ。

○福岡委員 みんなそれを言いはりますからね。

○奥本魅力創造課長 緑の地域でも飛んでいた。

○福岡委員 あの緑も一緒のことやと思います。井路があって。同じことですわ。昔はね。

○佐々木委員 川べりが、水もきれいかったしね。

○奥本魅力創造課長 水が流れるところでないと駄目なんですよ。

○佐々木委員 水が流れていて、そんなところに周りにはいろんな木も生い茂って、草も生い茂っていて、その間を夕方になったら蛍を見に走っていたこともありますね。今はちょっと、それは無理やと思います。

○萩副区長 本当はね、子どもたちにそういうのを見せてあげたいですけどね。

○木村（武）委員 でも、さっき映像で映っていたやつは、園児がカワニナを川に流していたやんか。あれは、あそこへ流したやつは、何匹かあそこでは成長して飛ぶはずやったんや。

○奥本魅力創造課長 はい。飛んでいます。

○木村（武）委員 昔は、もっと生き生き館の向こうのほうでやっていた。

○奥本魅力創造課長 生き生き地球館の裏側の自然体験観察園。

○木村（武）委員 やってたんやけども、そこでもちょっと、やっぱり育てて飛ぶんですよ。で、こっちへ持ってきたやつも、このごろ飛んでいるんですわ。それは言っています。向こうでやとったけど、こっちも飛ぶようになったないのは、あないして放流しているから飛ぶんやけど、ただ福岡さん、カワニナね、緑地は鳥が何ぼでもいますねん。

○福岡委員 そうですね。

○木村（武）委員 それが全部餌で食べてしまうから、生き残ったやつが成長して光っているんですよ。だから、そないして自然に蛍が飛ぶようないうことは、やっぱり一生懸命蛍の管理所が努力してやってまんねんな、一生懸命それは。

○福岡委員 よく分かります。それは分かっています。

○岡本部長 松田さん、何か一言。

○松田委員 このいろんな事業の中で、区の方、まちセンとかね、皆さんようやっていたかとは思いますが、私こうざっと見とって悩みが一つある

んです。この戦略2-1の次のページのところの上から二つ目の、各地域とも担い手確保に苦慮していると。これが、まさにそうなんです。私、茨田東の地域で、特に母子家庭も結構多いんです。そういう地域で、いろんな活動をやっても新しい人が見えてこない、乗ってこないというのがあるんでね、これは一つの地域性があるとは思わんですけれどもね、その辺をどないかしていかないとあかんというのが茨田東の悩みです。

○岡本部長 何か事務局のほうからご意見ありますか。

○濱口地域活動支援課長 事務局のほうとしましても、松田委員がおっしゃられるような担い手確保、どこにいまも見ぬ相手がいらっしゃるのかっていう、ともに手を携えて協働でやっていきたいと考えております。

○松田委員 お願いします。

○濱口地域活動支援課長 それについては、引き続きまちセン（中間支援組織）と連携しながら、いろんな切り口があろうかと思っています。

○松田委員 皆さん、ようやっています。

○濱口地域活動支援課長 少しでも糸口でも見出せるように引き続き取り組んで、息の長い話になると思うんですけれども、取り組んでいけたらなというふうに思っております。

○松田委員 お願いします。

○萩副区長 またいろんな知恵をかしていただいて、一緒になってやりたいと思いますので、よろしくお願いします。

○松田委員 そうですね。なかなか地域だけで考えても、もうみんなやっておる人が高齢化が進み過ぎているんですけれども、進んでいっても高齢化の天井がないんでね、だからその辺も一つは問題があるんですよね。その辺から変えていかないと、というのがあるんですけれどもね。

○岡本部長 今、意外と若い人、大学生ぐらいとか、ボランティアすると単位が

とれるっていうんで、やってみたいという人が増えてきているような気はするんですけどね。そういう問い合わせは、チョコチョコあるようなことを聞いておるんですが。やっぱり三、四十代はいてないですよ。

○松田委員　　そうですね。一番欲しいところがその辺の世代ですね。

○岡本部長　　仕事忙しいからね、正直言うて。そこら辺がなかなか難しいですよ。

○濱口地域活動支援課長　　楽しみながらやるというのも一つの観点かとは思いますが、すけれども。

○松田委員　　これも一つの地域性だと思うんですけども、そういうのをしようと思っても乗らないんです。乗れない。榎本さんのところなんかは8,000人もおられて、結構若い層も多い中で、そういうコントロールが木村会長を筆頭に全部伝わる訳ですよ。うちのほうは、やっぱりその辺が意図とするいうんか、連合としてどういうことを考えているか伝わってないようなところがありますよね。

○萩副区長　　木村会長がよう言うてはるみたいに、やれることからやっていこうと。

○木村（武）委員　　松田さん、うちも一緒にね、同じ状況やったんですよ。今でも同じ状況やと、余り変わらんとおもいますよ。

○松田委員　　我々から見たら、すごいなと。

○木村（武）委員　　そんなに変わらんと思うんですけどね。やっぱり動かんと、若い人もどこにおるのかわからんいうところあるでしょう。自分のまちの中をじーっと見とっただけではやっぱり、どこにどんな人がおるか分かりませんが、やっぱり一歩ちょっと踏み出して積極的に動くと、同じように、ここにこんな人がおったというのは分かってくるんですわ。だから、そのところはやっぱりちょっと踏み出して、こんなものをちょっと一遍やってみようかという、前へ出てもらったほうが若い人につながる率が多い。

○松田委員　　いろいろ考えています。ありがとうございます。

○福岡委員 緑は若い人が多いんですよ。何か楽しみの話が今出ましたけどね、やっってはる人もいてはるけど、ボランティアと奉仕の違いがありますやん。その人らは地域振興会の中の班長さんとか、これから国勢調査の委員さんとか、その辺なんかは話になりませんね。お任せできないっていう感じでね。ただ、盆踊りの屋台と運動会、確かに若い人が出てきてます。それはおっしゃるとおり楽しんであります。そやけど、それを一線ちょっと越さなあかん時期もあると思うんです。ほんまに我々地域振興会と、要するに奉仕とボランティアの差。会長さんがよう知ってはると思います。私はその線がいつも悩むところですね。奉仕も訳したら一緒ですか、ボランティアもということになるんですけど。今の若い子らは、ボランティアと割り切って結構やっはりますね。ただ、もう一つの線的时候は、ようしませんって言いはると思います。もう割り切りが強いから。そんなように感じますね、うちの地域では。盛り上がりますけどね、結構緑は。若いボランティアで盛り上がっていますけども。

○岡本部長 よろしいでしょうか、大体、皆さん。

随分、時間も、たくさんご意見が出ましたけど。とりあえず今日、いただきましたご意見をまた今度の30日の全体会議で取りまとめて発表させていただくというふうになっておりますので、よろしく願いいたします。

次、第3いきますか。お願いします。

○西野区政企画担当課長 私のほうから、その他としまして1件ご報告させていただきたいと思います。区政企画担当の西野でございます。

私のほうから、区政会議の次期委員の募集について、ご報告させていただきます。

ご存じのとおり、現在の委員の皆様の任期は本年9月30日までとなっております。このたび新たな公募委員の募集を行ってまいりたいと考えております。

本日、募集要項をお配りしております。用紙に鶴見区区政会議委員を募集しますというもので、A3二つ折りの資料をご覧くださいと思います。1枚めくっていただきますと、鶴見区区政会議一般公募委員募集要項というところがございますので、

こちらをご覧くださいませでしょうか。

まず一つ目、応募資格でございますが、これまでと同様、鶴見区在住・在勤・在学を条件といたしております。

二つ目の公募委員の募集人員ですが、今回も同様に5名程度の方といたしております。

任期でございますが、本年10月1日から平成29年9月30日までの2年間でございます。

4番目の応募方法でございますが、ご関心のある分野をテーマにしたレポートをご提出いただきます。応募方法で、前回と異なる点なのですが、より多くの方にご応募いただけるように、レポートの提出方法をご持参や郵送に加えまして、今回からメールでもご提出いただけることといたしております。

5番目、募集期間は、この7月1日から31日までといたしております。

7番目のその他でございますけれども、下から二つ目のぼつがありまして、現在の委員の方もご応募いただけますので、よろしく願いいたします。

区といたしましては、これまで区政ですとか地域活動にあまり参加されていなかった方を含めまして、より多くの方にご応募いただきたいというふうに考えております。また、子育て世代が多いという区の特性を踏まえまして、特にお母さん方にもご応募いただきたいというふうに切に願っております。委員の皆様のお知り合いの方などで、区政会議委員に適任の方がいらっしゃいましたら、ぜひご応募のほうお勧めいただけますとありがたく存じます。

また、今後、区の広報紙ですとか班回覧などもお願いしまして周知のほうに務めたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

私からのご説明は以上でございます。

○岡本部長 ありがとうございます。

今の説明で何かご質問がございましたら、よろしく願いいたします。

ないようでしたら、一応、本日の予定の議題は全て終了ということになるんですが、本日は土岐様、今井様に来ていただいていますので、何かご助言がありましたら、よろしくお願いいいたします。

○土岐市会議員 少しお話しさせていただきたいと思います。

この評価結果がそれぞれ出ていると思うんですけど、1, 500のアンケートを実施されている訳ですが、これはいつアンケートを実施されたんでしょうか。実施された日にちと、それから回答率を教えてください。寄せはった回答、1, 500のうち。

○奥本魅力創造課長 1, 500というのは、4回させていただいてまして。

○土岐市会議員 年4回。

○奥本魅力創造課長 年4回させていただきまして、こういう運営方針とかの業績目標をはかる際の、というのはこの、第3回でアンケートを実施させていただいてまして、これは26年11月21日から12月8日まで、要は年末ですね。

○土岐市会議員 年末にやったやつが、この数字に出ていますの。

○奥本魅力創造課長 はい。一応、1, 500名無作為抽出で回答率が38.4%、約4割ですね。

○土岐市会議員 4割で、数字で言うたら何ぼですの。

○奥本魅力創造課長 576名の方が。

○土岐市会議員 570が返ってきている。

○奥本魅力創造課長 はい。

○土岐市会議員 これは、年4回の話か。

○奥本魅力創造課長 4回目も同じような形です。これちょっと数が、アンケートの項目が多かったんで、3回目と4回目と分けているんですけども。

○土岐市会議員 これが反映されているデータは、いつの分ですか。11月にしはったものが、ここに出ていますの。

○奥本魅力創造課長 そうですね。第4回のときは、今年になって1月8日から1

月19日で、運営方針に関して聞いていまして、これも回答が590名。

○土岐市議員 590名。

○奥本魅力創造課長 はい。39.3%、約4割。

○土岐市議員 大体押しなべて4割程度。

○奥本魅力創造課長 約4割ぐらいですね。

○土岐市議員 3月終わってからするんやなくて、12月、1月ぐらいでやってはる。

○奥本魅力創造課長 そうですね。そういう形になっています。

○土岐市議員 集計の時間もあるかも分かりませんからですね。

○奥本魅力創造課長 そうですね。

○土岐市議員 なるほど。回答率からいくと、それだけですんなり、先ほど山下委員の意見ではありませんけど、撤退基準に達してないとかいう評価が適切かどうか、今はそれしかないの、それで先ほど山下委員がおっしゃったように、やっぱり中高生のアンケートも例えば併設するとか、中高生なんかもっと自分のところのまちのことについて関心を今から持たせておくというのは、今後やっぱり効果が出てくるんじゃないかという気がしましたね。だから、そこは今後の課題ですけど、一遍ご検討ただけたらどうかと。500人ぐらい、500人ぐらい言うたらちょっとおかしな表現かも知れませんが、それで撤退基準に当てはめる、それしかないの、いたし方ないと思いますけど、もうちょっとほかの評価の方法も、子どもさんの評価も一つ入れてみてはどうか。高校生なんか、もう大人ですからね。というのも一つ今後、検討していく必要があるかなという気がしました。

それと、撤退基準に達していないという、この表現は絶対変えたほうがいいと思います。どうしても、ぱっと見た人、文字だけですから、説明がありませんので、もうやめるのかなという形に捉えられてもあきませんので、やっぱり改善、もう一遍、一から抜本的な見直しをしますとか、ちょっとコメント入れていただくかですね。

30%以下のものは基本的に撤退基準に該当することになる訳ですから、その場合の改善策というのがいろいろ書かれてありますけど、じゃあ27年度に具体的に、いつまでにどういう改善策を出すのかというのは明記すべきだと思いますが、これはいかがです。改善しますと言いながら、27年度は進んでいってるんです。そこはどのように理解したらいいですか。

○河村区長　　ちょうどはざまになってしまいますので、26年度の振り返りを今やって、また時期がたったら28年度の方針をつくるということなんです。

○土岐市議員　　せっかく区政会議の皆さんで、委員の皆さん意見いただいても、当年度の部分のPDCAがなかなかできない。だから、終わってから振り返って、27年度はどうでしたかと言いながら、片一方では次の年度どうしようということやから、今やっている部分で、例えばこういう30%を下ったものについては、この27年度の中で当初はこういう形やったけども、こういう方向で見直ししてますよと、ですからこれで30%は必ずクリアしていきますみたいなものは必要かなという気がしましたので、一遍検討してみたいと思います。

○河村区長　　分かりました。

○土岐市議員　　広報の関係なんかで、かなり成果が出る部分もあるという気もしましたから、これは今回、広報・広聴担当課というすばらしい担当課長さんが誕生しましたんでね、大いにこれは今後期待していきたいと思っております。

以上です。

○岡本部長　　ありがとうございました。

今井さんは、何か。

○今井市議員　　本当に今回も、さまざまな方の視点で多様な問題意識が勉強できてよかったなと思います。

まず、このアンケートをとる目的というのが、第3回、第4回のアンケートというのは、この運営方針の自己評価のために区民の皆さんからフィードバックをもらうと

いう目的でとっているということですよ。

○奥本魅力創造課長　　そうです。あと、市政改革プランもこういった形の手法をとらないといけませんので、そういった形のアンケート項目もあります。

○今井市議員　　ということは、そのアンケート項目というのは市政改革プランのアクションプランに定められているものと、区独自で作成したものがあるということですか。

○奥本魅力創造課長　　この運営方針、3回目、4回目については区の方針。

○今井市議員　　先ほどの説明でいくと、運営方針のこの業績目標についてはアクションプランを参考にして立てている。

○奥本魅力創造課長　　基本的に、そういう形になります。

○今井市議員　　基本的には、ですよ。

○奥本魅力創造課長　　成果目標なんかについては。

○今井市議員　　それは何か縛りがあるんですか。縛りがあるって、そうなっているのかどうかということです。役所として、市政改革プランのアクションプランの数字を使って業績目標をここに当てこまなきゃいけないという縛りがあるんですか。

○奥本魅力創造課長　　市政改革プランのアクションプランのほうに、そういう指標が掲載されていまして。

○今井市議員　　それは分かります。

○奥本魅力創造課長　　そこに運営方針を記載するみたいな形もありますので、そういった形で運営方針に記載されていると。

○今井市議員　　というのも、この業績目標の設定が本当にいいのかどうかというのを、皆さん、多分疑問に思われていると思うんですよ。

例えば、さっきの交通安全のところでいくと、これハードル高いですよ。何でかって言うと、交通マナーが向上している、向上しているということは、去年よりもよくなっている、おとしよりもよくなっているという、この比較対象が自己の過去と

比較してという、非常に高い目標だと思うんですね。例えば、1個戻って、4-1-1の地域・関係機関と連携した防犯対策事業でいくと、安全で住みやすいまちと感じていると回答した区民の割合が50%以上、これは現状認識じゃないですか。現状認識で安全かどうかという質問と、向上しているかどうかで、全然ハードルが違うんですね。だけど、同じ50%が基準になっているので、そもそもこの目標設定をちょっと変えないと、適切な評価をしていけないよなというのが私の考えなんですけど、どうでしょうか。

○土岐市議員　これは前年度で決めたのかな。

○今井市議員　せっかく振り返りなんで、次の目標設定のときに、そういう視点をちょっと持っていただいたら、結果は変わってくるんじゃないかなと思うんですね。

例えば、基本的に全部見てたら、参加した人にアンケートとったら高い評価なんですよ。全部見ていたらそうですよね。

○土岐市議員　そりゃ、そうやね。

○今井市議員　だから、何を目標にするか。参加した人の満足度をはかりたいんだったらそれでいいんですけど、そうじゃなくて区全体の意識をはかりたいんだったら現状認識をする質問を問うべきだし、それとも前年との比較で少しでも向上させたいんだったら目標値を下げてでも比較の数字をとっていかなければ、そういう適切な目標設定というのを、また皆さんと一緒に考えていきたいなと思います。

あとは、ここの撤退基準の議論もあったんですけども、基本的に目標を下回っている部分に対しては課題・改善策というのは示されているんですけど、基準に達した部分については課題・改善策というのは基本的に記載されていないと思うんですよ、みる限り。でも、本当に目標を達成したかという、課題はないのかと言ったらそうではないと思うんですね。だから、1個1個しっかり、より改善できるものは何か、より効率的にできるものはないのか、よりもっと連携を深められるものはないのか、

いろんな視点で課題というのは絶対あると思うので、目標を達成したから改善しなくていい訳ではないというのは思うので、またちょっと議論の視点を広げたり深めたりしながら、論点整理しながら皆さんと話し合えるように事務局のほうでも、難しいと思うんですがね、いろんな縛りもあったりして。丸投げ、何か意見ありますかという振り方よりも、例えば、P D C Aサイクルの中のC、チェックの部分がここの部分なんです、このチェックするときに本当にこの基準でいいんですか、この評価でいいんですか、チェックの後のアクションどうしますかっていうような、議論のフレームというのをもうちょっとしっかり組み立てると、もっと会議がさらに、もうすごい意見出てよかったんですけど、さらによくなっていくんじゃないかなと僕は思いました。

一応、助言として、少し耳にとどめておいていただければありがたいと思います。以上です。

○岡本部長 土岐様、今井様、ありがとうございます。

委員の皆様も長時間にわたり、たくさんのご意見ありがとうございました。

それでは、閉会に当たり、区長のほうからご挨拶よろしく申し上げます。

○河村区長 皆さん、今日は第1回目ということでございまして、長時間ありがとうございました。

確かに私も、目標設定の数字というのは、もともとそう設定されていたからというのもあって、それに単に達してないからどうだこうだという議論をするのが本当に有意義かどうかというふうに思っていて、なのであくまでも一つの指標としてはあるとは思いますが、

○今井市議員 計測は絶対必要だと思う。

○河村区長 そのアンケートに答えている意図も、その立場立場があって、どういう理解のもとで答えているかということもあるでしょうし、聞いている人がそもそも聞く対象に見合った人なのかということもあるんで、それは本当に単に数字という、それは一つ大事なことであるんですけども、今井先生が言われたような視点からまた考

えたいなというふうに思っています。

土岐先生がおっしゃっていたような中間的な振り返りも、抽象的な課題抽出というか、また目標設定になるかと思うんで、具体的にそうしたら、今年はどこを改善していくんかということも明確にできるように頑張りたいと思います。

いろんな議論をいただきまして、クリーングリーンにしてもいろんな広がりを持っていかなあかんということも、また工夫しながらやっていきたいというふうに思っていますし、木村会長のほうから防犯カメラの台数のことも教えていただきましたけども、地域にとって何が一番いいのかという観点でまた考えたいというふうに思っています。

また、山下さんがおっしゃっていただいたような、いろんなところのアンケートというのは確かに大人の人にはとっているんですけどね、あらゆる世代から聞くという視点が欠けているのかというふうなこともありますんで、その辺もまた今後の課題にしていきたいなというふうに思っております。

今日は、課題が地域コミュニティから防犯、交通安全、いろんなジャンルにわたっておりますけれども、貴重なご意見を賜りまして、ありがとうございました。また、引き続きよろしく願いいたします。

○岡本部長 ありがとうございました。

最後に、事務局、何か連絡事項があればお願いします。

○濱口地域活動支援課長 本日、多く御意見いただきまして、ありがとうございました。

次回の会議の予定でございます。第1回全体会、今月6月30日火曜日です。19時から区役所4階403、404、隣の会議室なんですけれども、その403、404の会議室で開催させていただきます。全体会でほかの部会関連の自己評価につきましても広くご意見をいただきたいと思いますと考えておりますので、お忙しいとは思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

事務局からは、以上です。

○岡本部会長　ありがとうございました。

それでは、長時間にわたり本当に皆さん、ありがとうございました。これで、第1回の第2部会の部会を終了したいと思います。本当にありがとうございました。お疲れさまでした。

閉会　20時45分